

横浜市福祉サービス第三者評価 評価結果総括表

事業所名	岸根保育園	
報告書作成日	2007年1月11日	(評価に要した期間6か月)
評価機関	社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 横浜生活あんしんセンター	

評価方法

<p>自己評価方法</p> <p>(実施期間:2006年7月14日～ 2006年9月22日)</p>	<p>非常勤も含めた全職員が自己評価に取り組み、クラス会議→乳・幼児会議→リーダー会議での職員の話し合いを経て、あがってきた自己評価を最終的に園長が集約した。</p>
<p>評価調査員による評価方法</p> <p>(実施日:2006年11月14日・21日)</p>	<p>評価調査員(2名)による現地視察や書類確認、面接ヒアリング調査(園長、主任保育士、栄養士など)を行った。</p> <p>また、職員(新人、中堅、非常勤)にも個別にヒアリングを行った。</p>
<p>利用者家族アンケート実施方法</p> <p>(実施期間:2006年7月20日～ 2006年8月3日)</p>	<p>全利用者100名に対する保護者89世帯を対象とし、事前に施設と評価機関(市社協横浜生活あんしんセンター)の連名でアンケート依頼文を連絡帳に挟み込み、園から手渡しで配布し、その1週間後に本アンケートを同様に園から手渡し、約2週間の回答期間を設け、匿名で直接評価機関に返送してもらった。</p>
<p>利用者本人調査方法</p> <p>(実施日:2006年11月7日)</p>	<p>園児100名のうち、予め園側にリストアップを依頼した中から10名(園児の10.0%)を対象に、評価調査員2名が保育観察(0～4歳児4名)、本人聴き取り調査(5～6歳児6名)を行った。</p>

評価結果についての講評

〔施設の特徴〕

- 「岸根保育園」は港北区の南端、神奈川区との境に位置し、市営地下鉄「岸根公園駅」から岸根公園内を10分ほど歩いた住宅街にあります。周辺には古くから栄えた庶民の街らしい風情を感じさせる六角橋商店街や神奈川大学などがあり、広々とした芝生の広場や明るい樹林のある岸根公園とは地続きになっています。園舎からは岸根公園の四季折々の樹木を眺めることができ、自然環境に恵まれた立地です。岸根公園への散歩や遠足のほか、活発な園庭遊び、「畑年間計画」に基づき様々な野菜作りが行われる栽培活動など広い園庭や畑、隣接する岸根公園などをフルに活かした保育が行われています。
- 園では、子どもの発意や選択を優先する保育を大切に、「子どもの人権に配慮すること」や「子どもの立場にたって保育し、子どもの要求を大切にすること」などを園目標や保育姿勢に揚げ実践されています。
- 横浜市が公立保育園の民間移管を行った初年度（2004年4月）の4園中の1園であり、横浜市直岸根保育園が社会福祉法人「山百合会」に経営移管された定員100名の中規模園です。土曜日でも朝7時から夜21時まで延長保育を行うなど、子育てニーズに応えたサービスの充実に努めています。
- 法人系列保育園6園で給食部会や看護部会、それぞれの保育士からなる0歳児部会、1歳児部会、2歳児部会、幼児部会などの部会組織を作り、法人内OJT（園内研修）を研修体系の中心に置き人材育成に努めています。さらに、法人としてのホームページの開設や共通給食献立の作成など、スケールメリットを活かした運営を図っています。

〔特に優れていると思われる点〕

①一人ひとりの子どもの気持ちを大切に**する保育の実践**

- 園の保育姿勢に「子どもの人権に配慮すること」や「一人ひとりの発達段階を大切にする」、「子どもの立場にたって保育し、子どもの要求を大切にする」などを掲げ、職員会議やクラス会議、各年齢毎の部会などを通して保育姿勢の確認や保育士が専門性を高めるための研修を行っています。また、主任をフリー（横断的な指導）にし、各クラスを巡回するなど職員が精神的に良好な状態で取り組めるように配慮し、「各々の保育士が声を出し合う」などの業務改善に取り組み、子ども一人ひとりを尊重した保育を実践するための支援体制作りにも努めています。
- 例えば、イモの蔓を利用したリースの制作では、自由時間の中で子どもがやる気になった時に保育士の援助を得て取り組めるように設定されており、子どもが一区切りして終了する時には「じゃあ、またやりたくなったら、言ってね。」と声をかけるなど、子どもが自分の意向を伝えやすい声かけを行っています。子ども達は自然な形で「作品を飾って欲しい。」「見て欲しい。」「やりたい。」など自分の意思や要求をその都度保育士に伝えています。

- また、ブロック（玩具）が崩れた音に驚いて固まってしまった子どもに駆け寄り「大きい音だったね。あ～怖かったね。」と子どもを抱きしめたり、嬉しそうに家庭での出来事を報告する子どもに「とっても楽しかったんだね。」と相づちを打つなど、子どもに共感する言葉かけを行っています。友だちとのトラブルで泣いて話せない子どもは抱き上げ、気持ちの安定を図ったうえで、その子の言い分を代弁するなど、子ども一人ひとりの気持ちに寄り添った保育を行っています。
- さらに保育士は子どもが話しかけた時にはいつでも手を止め、話を聴く態勢があり、なかなか靴が履けない子どもにも必要以上には手を貸さず、自分でできるまで側で見守ったり、排泄は自分でできるけれどもトイレに一人で行くのが不安な子どもに対しては、トイレが見える廊下まで出て見守り、慌てなくてもすむように途中でも「見てるよ」と声をかけるなど、子どもの立場にたった自立への手助けが行われています。
- 家族アンケートでも「友だちとの関わりや保育士との関係」や「あなたのお子さんが大切にされているか」などの項目で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答が90%を超え、高い満足度となって表れています。

②「畑活動」を活用した多様な保育の取り組み

- 園では広い畑を活かした栽培活動に力を入れています。「畑年間指導計画」を作成し、トマト、キュウリ、ナス、ピーマン、ゴーヤ、ピーナッツ、枝豆、すいか、さつまいもなど様々な野菜を育てています。また、プランターでも二十日大根やオクラ、ひまわりなどを栽培し、土作りから草取り、種まき、苗植え、水やり、収穫まで一連の活動を行っています。
- これらの活動では、例えば、生ゴミ処理機を活用した肥料作りや枯葉を集めて埋め、土作りを行うことで、生命のサイクルを学んだり、育てる過程で「中にはうまく育たないものもある」ということを知る貴重な体験の場になっています。また、自分の手で愛情をもって育て、成長を楽しみ、自分で収穫し、食べてみることで野菜そのものの味を体感する活動を行っています。さらに、約束事を守ることや友だちと協力し合う事も学んでいます。
- また、畑活動から広がる様々な取り組みを日々の保育の中につなげています。例えば、収穫した野菜を使ったカレー作りなどの調理では食育計画とも連動させ、異年齢交流の場になるとともに、親子で参加し楽しめる計画にもなっています。また、作物の写生をしたり、イモの蔓を使ってリース作りをするなど、制作活動にもつなげています。さらに、近隣住民に収穫したイモを配り、地域交流を行うほか、焼き芋大会などの行事も実施しています。
- これらの畑活動は在園児のみならず園庭開放時にも行われ、地域子ども達が土と触れ合う貴重な交流・体験の場となっており、地域子育て支援の一助にもなっています。

③様々なニーズを探り、サービスの充実を図るための取り組み

- 園は横浜市が公立保育園の民間移管を行った初年度4園の中の1園であり、民営化に伴った様々な条件の中で、子育てニーズに応えたサービスの充実に努めています。移管後の新たなサービスとして産休明け保育、完全給食（主食の提供）、園庭開放などの実施のほか、平成18年度からは園児の兄弟姉妹のみに行っていた一時保育を育児相談の声なども反映して徐々に園庭開放利用者にも拡大しています。また、朝7時から夜21時までの延長保育を土曜日にも実施し、夕食の提供も行うなど子育て家族のニーズに応じています。
- さらに、園舎の老朽化など（1977年に公立保育園として開園され、築30年経過）を補い、移管後の短い期間に、テラスに沐浴もできる温水シャワーを設置するなど新たな整備を行い、ハード面でも充実を図っています。また、ボイラー室や畑への出入口への鍵の取り付け、家具の転倒防止器具や防犯ベルの設置など、安全対策も心がけ、例えば、子どもにトゲが刺さったことから、椅子を更新するなど、気づいたことはすぐに実践するよう努めています。
- 平成18年度には障害者雇用のための一歩として、横浜市高等養護学校から知的障害者の実習生を受け入れています。園ではこれらの取り組みから、在園している障害児の保護者に将来の希望をもってもらうなど、障害児保育の充実にもつなげています。また、地域のニーズに合わせて年齢毎の募集園児の変更を検討するなど、園として常に新しい取り組みを推進しています。

[特に工夫や改善などを期待したい点]

①さらなる活用を念頭においたマニュアル等の整備や管理の充実を

- 「感染症マニュアル」をはじめ掃除や消毒などについて記載された「衛生・健康マニュアル」等が策定され、ルールや留意点については、日常業務の中で徹底されていますが、マニュアルの内容については、職員参加での定期的な見直しまでには至っていないことが惜しまれます。今後は改訂時期を定期化（ルール化）することにより、職員の意識もより明確になり、また、その都度マニュアルに沿った保育が行われているかをチェックすることで、サービスの検証にもつながるものと考えます。見直し時に最新の技術や今までに培ってきた経験、技術、ノウハウの蓄積を図ることで、保育サービスの一層の充実につながると思われます。改訂版毎にファイリングするなどの工夫も効果的でしょう。
- マニュアル類も含めた書類類は一括して事務所に保管されており、全職員が必要に応じて閲覧できる柔軟な対応がなされていますが、今後は重要度や活用頻度に応じて分類し、保管場所を分けるなどの工夫をされてはいかがでしょうか。書類の種類によって保管場所、施錠状況等を見直し周知徹底することで、さらに情報管理の精度が高められることを期待します。

②保護者へのきめ細やかな情報提供で、よりスムーズな苦情対応を

- 家族アンケートでは、より苦情を訴えやすい雰囲気作りを期待する声もあがっています。現在、苦

情解決窓口については年度当初に文書で第三者委員の氏名を保護者に公開していますが、さらに第三者委員の連絡先（電話番号、メールアドレス等）なども伝えることで、保護者が直接第三者委員に苦情や要望を申し立てられやすくなるものと考えます。

○園に寄せられた苦情、要望は一括してファイリングされていますが、それらをデータとして分析したり、対応経過を記録としてまとめるまでには至っていないことが惜しまれます。苦情対応について定期的に職員で検討する場などを設けることも、今後の様々なサービス改善の糸口となるのではないのでしょうか。過去の経験を園（法人）の財産とするためにも、トラブルや要望への対応を一層充実されることを期待します。

③より職員一人ひとりに即した人材育成のしくみづくりを

○法人として職員の経験年数毎に役割期待水準を定めた「(社福)山百合会職能資格等級制度表」が策定され、年に一度園長が職員と個別面接し、意見や要望等を把握しています。今後は、現在行われている職員面接を生かし、個々の目標設定や効果測定を次年度に反映させる仕組み作りをさらに進められてはいかがでしょうか。仕組みを有機的に連動させ、職員一人ひとりにきめ細かく対応する人材育成が進展することを期待します。

○職員研修は法人全体の人材育成計画に沿って行われていますが、園長と職員の個別面接から到達度を確認し、園独自の取り組みをさらに積極的に展開されてはいかがでしょうか。園として必要な人材をより現場に即した形で育成する効果が得られるものと考えます。



○横浜市総合リハビリテーションセンターなどの専門機関や大学教授等学識経験者など、外部の専門家との意見交換も積極的に行われています。そうした取り組みに加えて、外部講師を招いた保育士のスーパービジョンなどの検討も期待します。今後、保育現場へ可能な範囲で権限を委譲し、主任クラスの職員にスーパーバイザー的な役割を担ってもらうことで、より組織力の高い保育が展開できるものと思われれます。




評価機関による評価 岸根保育園




3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある


評価領域Ⅰ 利用者本人の尊重


評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分と仲間を大切にする子ども」を育てることを園目標に、「子どもの人権に配慮」「一人ひとりの発達段階を大切にする」「子どもの立場にたって保育し、子どもの要求を大切にする」ことを保育姿勢に掲げており、これらの目標や姿勢は子ども本人を尊重したものとなっている。園目標と保育姿勢は、園のしおりを通じて保護者にも伝えられている。 ・園目標、保育姿勢は職員会議の場で、事例に基づき随時確認しており、一人ひとりの子どもを大切にするのが職員に浸透している。 ・日常の保育の中で子どもの発意や選択を優先する対応が徹底されている。また職員会議でも子どもの目線に立った保育となっているかを随時チェックしている。 ・自然に恵まれた環境を保育計画に反映し、年齢毎に指導計画、食育計画を作成するほか、5歳児には野菜を育てる「畑年間計画」も作成している。また、土曜日でも21:00まで延長保育を行い、補食や夕食を提供するなど保護者の就労状況やニーズも考慮している。延長保育が長時間になる子どもは、冬にはこたつが置かれる家庭的な雰囲気のある部屋で過ごすことができるようになっている。 ・クラス懇談会を通じて保護者に年間計画を伝えるほか、行事日程に対するアンケートを行い、意見を汲み取っている。計画改定時には文書と掲示により保護者に迅速に周知している。 ・幼児会議、乳児会議、クラス会議の場で子どもの意欲や保育の課題等を確認し、課題解決の取り組みを行っている。 ・保育計画は年度毎に職員会議等を通じて見直し改訂しているが、現段階では非常勤職員やパート職員等が作成や見直しに関わるどころまでには至っていないことが惜まれる。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園時面接では子どもの家庭環境や就労状況、留意点等を保護者から聞き取り、子どもの遊ぶ様子も観察している。 ・ならし保育を大切に考え、対応が難しい保護者には園長が個別面接を行って意義を説明し、どのような形が可能かを保護者とともに探っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・新入園児が慣れるまでは在園児と新入園児を2つのグループに分け、それぞれに担当保育士をつけ、在園児も生活のリズムが維持できるように配慮している。 ・月間指導計画作成のため、該当月2ヶ月前からクラス毎に振り返りを行い、課題整理と改訂につなげている。保育士が新たな保育の取り組みや行事の提案を「企画書」として提出し、職員会議で検討した上実施する仕組みもある。企画書によって行われた例として、「七輪でサンマを焼く会」や祖父母を園に招いて交流する「祖父母の会」などがある。
<p>I-3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室は1日4回、トイレは1日2回清掃が行われている。臭気を取り除くため排水溝の臭い止め工事を行うなどの配慮をしている。保育室はこまめに通風・換気している。 ・「子どもが主役の保育」を念頭に、保育士の言葉かけについて職員同士でチェックし合い、保育者は穏やかな声がけを心がけている。 ・乳児クラスでは食事の際、テーブルをセットし、空間の雰囲気を変える工夫をしている。幼児クラスは床にカーペット等を敷き、座り込んで遊ぶコーナーや、食べる場所と着替える場所の区別を機能的に行っている。 ・リズム遊びでは幼児クラスの2つの保育室を開放し、3, 4, 5才児の異年齢交流を行っている。また正面玄関前のホールも園文庫が置かれ、異年齢児の交流の場として利用されている。
<p>I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・0~2歳までのすべての子どもに個別指導計画があり、配慮が必要な幼児にも個別指導計画を作成している。内容は子どもの状況にあわせて随時検討・改訂し、柔軟な体制をとっている。 ・園全体に関わることは保護者に文書で通知している。個別の課題については行き違いや誤解のないよう、送迎時や個人面談等対面でのやり取りを重視して説明、同意を得ている。 ・「家庭調査票」や「児童票」等は子ども毎に個別のファイルが作成され、事務所の書棚に収納されている。全職員が必要に応じて記録を閲覧することができる。 ・「転びやすい」、「花粉症がある」等少しでも気になる部分（状況）があれば担当保育士がメモにし、進級時の引き継ぎ内容として伝達している。
<p>I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する子どもの受け入れを積極的に行っている。対応は職員会議の場で全園的に検討している。各会議録は全職員が勤務時間中自由に閲覧できる。 ・障害児に対しては個別指導計画を作成し、経過記録とあわせて個人ファイルにしてまとめている。また、年1回程度横浜市総合リ

	<p>ハビリテーションセンター（療育センター）、保育園、区福祉保健センターの保健師、担当係長によるカンファレンスが行われている。障害については、違いを意識し始める年齢の子どもには保育士がわかりやすく説明したり、障害について子ども向けに解説した絵本などを保育室に常置するなど、理解を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人内研修、外部研修を通じ障害やアレルギー疾患などについての専門知識を習得している。研修資料、研修レポートは全職員が閲覧できるようになっており、情報の共有化を図っている。 ・アレルギー疾患のある場合は「除去食申請に対する主治医意見書」という文書を提出してもらい、かかりつけ医の詳細な指示に基づいた対応を図っている。 ・保護者に献立表のアレルゲンとなる材料をマーキングして提出してもらい、対応する除去食や代替食を提供している。除去食、代替食は栄養面や彩り（見た目や形状）など他の子どもたちとの相違に配慮している。 ・子ども達に異文化への理解を図る取り組みとして、年長クラスには世界地図、地球儀を置くほか、サッカーワールドカップなど国際的なイベントの際、意識的に話題として取り上げている。
<p>I-6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・正面玄関に保護者用意見箱を設置するほか、年数回アンケートを実施して苦情や要望を汲み取っている。クラス懇談会や個別面談に参加が少ない保護者には送迎時に意識的に関わりを多くするなど、対応策を検討している。また、個別の連絡ノートやFAXでも苦情や要望を受けつけ、寄せられた内容はファイリングされて職員会議などを通じて共有化が図られている。 ・平成14年2月から苦情・要望解決の仕組みを作り、内容を文書化している。苦情受付担当者、苦情解決責任者、園内での対応、第三者委員との連携を明記し、保護者にも配布している。しかし、第三者委員の電話番号等連絡先が記載されておらず、直接苦情を申し立てやすい状況までには至っていないことが惜しまれる。 ・玄関掲示板にかながわ福祉サービス運営適正化委員会や港北区の子ども家庭支援相談のポスターを掲示し、外部苦情解決窓口の情報も提供している。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ-1 保育内容【遊び】</p> 	<ul style="list-style-type: none">・子ども達が自由に活動できる空間を広くとる一方で、園文庫の近くに木製のベンチを設置し、お迎えに来た保護者とともに絵本を読むことができる空間を作るなど、意識的に静と動の空間を作ったり、電動のおもちゃなどは避け、子どもの手になじむ、遊び込めるおもちゃ（例えば、木製の自動車やブロック等）を中心に選ぶなど環境構成に配慮している。・折り紙・色鉛筆・クレヨン・廃材・チラシなど、様々な素材が自由に取り出して使えるようになっており、子ども達は自由活動や給食後のちょっとした時間に紙や鉛筆を出してきて、人形やキャラクターなど思い思いの絵を描いている。・広い畑を活用した栽培活動に力を入れており、畑指導計画が作成され、土作りから種まき、苗植え、収穫など一連の畑活動を行うほか、調理、制作活動、また収穫したさつまいも等の近所へのお裾分けを通して地域交流を図るなど、日常活動につなげている。子ども達は共同作業を通して友達との関わりを学んだり、「中にはうまく育たない物もある」という事を知る貴重な体験の場となっている。・岸根公園への遠足で採ってきたドングリで共同制作を行ったり、夏には昆虫採集でセミを捕り、写生したり、おしろい花やしそで色水遊びをするなど、自然に触れる機会を大切にし、日々の保育活動に活かしている。・リレーなどの一斉活動では、順番を守って並ぶ等ルールを守る事を学んだり、友達に声援を送る等社会性を養う機会を作っている。・毎週木曜日には3~5歳児の合同でリズム遊びを行っているほか、園庭での自由活動の中でも異年齢と一緒に遊んでいる。また、毎年お盆の頃の1週間はプール遊びやランチルーム形式の食事（自分で好きな場所に盛りつけられた給食を運んで食事をするカフェテリア形式）を通して異年齢交流を行っている。・まず、保育士が赤い実を拾い集め、関心を持った子どもに「どこにあるだろうね。〇〇ちゃんも探してみて」と促すなど、子どもの興味・関心を引き出す援助が行われている。また、子どもが集中している時には区切りがつくまで見守るなど、子どもが落ちついて活動に集中できるよう心がけている。・職員は子どもたちに声をかけられた時には、活動の手を止めて話を聴き、応えており、泣いている子どもは抱き上げる、手をつなぐなど常に温かい態度で接している。・次々に手紙を見つけ、手紙に書かれた道をたどって行くミステリ

	<p>ーツアー、どんぐり拾い、広場でのかけっこ、坂道を登る等発達状況や子どもの興味・関心に合わせた様々なパターンの散歩（園外保育）を行っており、広い園庭や目の前が岸根公園であるという立地を活かした保育が行われている。</p>
<p>Ⅱ－１ 保育内容【生活】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長クラスでは自分の食べられる量を加減して自分で盛りつけ、盛りつけたものはできるだけ残さず食べるように指導している。おひつに入れたご飯やおかずがテーブル毎に置かれ、おかわりも自由にできるようになっている。 ・授乳は、0歳児の食育計画にも「安定した姿勢」「目と目を合わせ」などが実践のポイントとして記載され、保育士ができるだけゆったり座れる場所で、子どもを抱いて行っている。 ・離乳食は発達段階に合わせてきめ細かく対応しており、飲む生活から食べる生活への移行をスムーズにするための配慮が行われている。 ・季節感のある献立（例えば夏には、夏野菜カレーや冷やしうどん、また、枝まめなど旬の食材が取り入れられているメニュー）になっており、行事食も実施している。また、野菜を多く取り入れた手作りおやつを提供している。 ・食育計画に基づき調理実習や配膳の機会を作るなど、子どもの食に対する興味・関心を大切にしている。テーブルクロスなどで雰囲気作りをするとともに、乳児クラスでは「はじまりの歌」を歌ったり、幼児クラスでは食材の簡単なクイズをしたり、給食への導入を行っており、保育士も子ども達と楽しくおしゃべりしながら食事をしている。 ・食器は平成18年10月からより安全性が高く、安定して使いやすい陶器製に移行している。 ・大根おろしのざらざら感を無くすために煮た大根を裏ごししたり、キャベツを鶏肉の照り焼きの下に敷くことで味をしみこませ、しんなり食べやすくするなど調理や盛りつけに配慮している。また、カレーの野菜は大きめに切るなど食べやすさだけでなく、噛むことも大切に調理している。 ・給食部会で話し合い、法人内の系列園で同一献立を作成している。保護者には献立表のほか、「さつまいもごはんの作り方」などのレシピや元気に過ごすための食事等、食に関する情報を記載した給食だより「きしねっこ」の発行、給食サンプルの展示、給食試食機会の提供等、給食への理解を深めている。また、ならし保育の最中に親子で給食を食べてもらうようにしている。 ・午睡時、子どもが眠れない時には、静かに絵本を読んだり、玩具で遊ぶ事もできるなど柔軟な対応をしている。また、場合によっては保護者からの要望に合わせて早めに起こすなどの対応もし

- ている。年長児の午睡は3学期に入ると、毎週1回は寝ない日を作るところからはじめ、3月までに段階をおって減らしている。
- ・0歳児には硬めのマットを使用し、仰向けに寝かせるようにしている。6ヶ月までの子どもにはベビーセンサー（マット状のものをベビーベッドの下に敷き、一定時間呼吸がないとブザーで知らせるセンサー）を使用し、それ以外の子どもについても保育士が5分おきに睡眠状況（呼吸・うつぶせ寝になっていないか・布団がはがれていないか）をチェックしている。
 - ・トイレトレーニングは、連絡ノートや送迎時の口頭などで保護者と連携をとりながら、1歳半からはじめ、2歳からは個別の月間計画表に即して対応している。おまるやトイレに誘う、おしりを拭くところのみは手伝うなど保育士が子どもの発達状況に合わせて援助を行っている。また、排泄は自分でできるが、トイレに一人で行くのが不安な子どもに対しては「先生、ここで見ているから」と言ってトイレが見える廊下で見守り、子どもが慌てなくてすむように、途中でも「ここにいるよ」と声をかけるなど自立への援助を促している。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理〔健康管理〕



- ・子どもの視診のポイントが記載された視診マニュアルが作成されている。さらに、看護師が午前と午後の2回各クラスを巡回し、子ども達の健康状態を観察している。また、連絡ノートや送迎時の口頭で保護者と連携を図っている。
- ・「健康記録」にアレルギー疾患やけいれんなどの既往症を記載してもらい、毎年保護者に戻し確認をとり、最新情報を把握共有するようにしている。てんかん等が起こりやすい状況にあるときには、連絡先、保険証番号、対処方法、身長、体重など必要な情報を事務所に貼りだし、全職員が速やかに対応できるよう周知徹底を図っている。
- ・食後の歯磨きについては、0~2歳児は保育士が仕上げ磨きを行っている。幼児については、保育士自身も一緒に歯磨きを行い見本になったり、給食時に歯ブラシをテーブルに出しておくなど、磨き忘れを防ぐ工夫がされている。
- ・子どもの健康診断結果は保護者に連絡ノートやプリントなどで伝えられ、結果は個別の「健康台帳」にまとめられ事務所の書棚に保管されている。
- ・日頃の感染症予防策や子どもの嘔吐物・排泄物の処理などが記載された感染症マニュアルが作成されている。また、学校伝染病と出席停止期間についても記載され、届出書と1枚になった「登園許可証明書」を4月や改訂時に保護者に配布している。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理〔衛生管理〕



- ・掃除や消毒などについて記載された「衛生・健康管理マニュアル」が策定されているがマニュアルの内容について現段階では職員参加での定期的な見直しまでには至っていないことが惜しまれる。
- ・清掃や消毒などの手順や約束事については、日常業務の中で確実に職員が理解できるよう指導を行い、徹底している。例えば、乳児室では保育室外やトイレなどから戻った際、必ず全職員が保育室内の手洗い場で手指を洗うことが徹底されている。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理〔安全管理〕



- ・「保育の安全対策・事故対策マニュアル」が策定されている。マニュアルには安全点検のポイントや園内外での事故発生時の対応などが記載されている。安全点検表を活用し、床や遊具、園庭などのチェックを行い、鍵の修繕や園庭の石拾い、サッシのすきまを安全なゴム状の器具で埋めるなど、対策が図られている。
- ・子どものケガについては小さいものでも保護者に口頭や電話で連絡し、病院へ連れて行く時には保護者の承諾を得ている。
- ・ケガや事故についてはその場で打ち合わせ、対応するほか、月1回の職員会議で報告、再発防止策などの検討が行われ、例えば子どもにトゲが刺さった事から、古い椅子を新しくするなど改善策が講じられている。また、ケガや事故の有無に関わらず、家具の転倒防止器具を設置するなど、安全対策に努めている。
- ・不審者侵入防止策としては門や入口の施錠、防犯ベルのほか、園庭の2つの門、給食室、園舎裏など4か所に防犯カメラを設置している。事務所からは園庭への出入りが直に見えるようになっており、事務所には必ず誰か職員がいるよう配慮されている。さらに、行事等の際は保護者に事前に渡した目印を付けてもらい、部外者は入園できないよう門でチェックを行っている。
- ・港北区の防犯メールや近隣の神大寺小学校とのネットワークが確立され、不審者情報がFAXなどで流れてくるようになっている。近隣の不審者情報があつた時には、職員が門に立ち安全確認を行っている。

Ⅱ-3 人権の尊重



- ・子どもの尊厳を守ることを大切にしており、保育士が専門性を持つための研修を行っている。日常の保育の中で園長や主任が気になることを注意するほか、職員同士でも相互に注意し合える雰囲気がある。また、保育士が相互にフォローしあう仕組みがある。
- ・ブロック（玩具）が崩れた時の音に驚いて固まってしまった子どもに保育士が駆け寄り「大きい音だったね。あ〜こわかったね!」と子どもを抱きしめたり、うれしそうに家庭での出来事を報告する子どもに「とっても楽しかったんだね。」と相づちを打つなど、子どもの気持ちに寄り添った援助を行っている。

- ・プライバシーを守れる場所として、うさぎの部屋（うさぎの絵がドアに貼ってある畳敷きの多目的ルーム）や事務所などがある。
- ・「情報公開について」の文書が策定され、その中で対象とする個人情報や目的外の利用、提供の制限等個人情報取扱についてのガイドラインが定められ、職員は個人情報について具体例をあげて検討を行い認識を高めている。
- ・個人情報に関する書類は、基本的には事務所内の施錠できる書棚に保管・管理され、事務所の施錠は行われているものの、鍵の保管については厳重に管理されるまでには至っていないことが惜しまれる。
- ・虐待については、子どもの様子の変化に気を付けるとともに、送り迎えの際、保護者に必ず声をかけるようにしており、虐待が疑われる場合には、園長が窓口になり児童相談所と相談・連携する体制を整えている。
- ・性差への先入観を植え付けないよう、順番や色、個別のマークなど、性別による区別は行っていない。また、「連絡をする際はまず母親に連絡してしまう」、「子どもの様々な世話を父親が行った時には母親が行った時よりほめてしまうことがある」などの具体的な事例を挙げて、父親・母親の役割を固定的にとらえないよう職員会議で話し合っており、職員の認識を高めている。



II-4 保護者との交流・連携






- ・入園時に配布する「ほいくえんのしおり」や園のホームページにも園目標や保育姿勢が明記され、保護者会役員会や三者協議（横浜市、保護者、園での協議。最近では横浜市を除いた二者協議となっている。）、懇談会などを通して理解浸透を図るとともに、理解度も測っている。
- ・年に2回クラス懇談会が実施され、子ども達の写真を見ながら保護者に、一日の流れやクラスの様子、子ども達の成長等の説明を行い、出席できなかった保護者には懇談会の内容を記載したプリントを配布している。また、子ども達の毎日の活動や情報については、子どもの様子を伝える写真を保育室内に掲示するとともにクラスノートで知らせている。
- ・個々の子どもについての様子や体調等については、送迎時の口頭や個別の連絡ノートでやり取りされ保護者との連携を図っている。また年1回面談週間を設け、保護者の希望に合わせ個別面談を実施するほか、相談等がある場合は随時個別に面談を行い、関係機関等と連携を図るとともに内容は子どもの経過記録の中に記載している。
- ・園便り「事務室通信」をはじめ各クラスだより、保健だより、給食だより「きしねっこ」などを毎月発行し情報発信に努めている。
- ・保育参観を随時受け入れているほか、運動会の親子競技やクッキー

	<p>ングなど保護者が参加できる様々な行事を実施している。また、おじいちゃん、おばあちゃんを招待して交流する「祖父母の会」なども実施されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋祭りやもちつき、人形劇など保護者会主催の行事に職員が参加協力するほか、園の運営に関わる様々な取り組みについて意見を聴くなど、保護者会組織と連携を図っている。また、案件によっては保護者会役員に限らず希望すれば全保護者が参加できる三者協議も開催することがある。
--	---




評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区地域福祉保健計画策定に保育所として参画し、地域の子育てニーズの把握に努めている。また、近隣中学の職業体験の受け入れや近隣住民への運動会プログラム配布なども行っている。 ・夏祭りや七夕等の行事、畑仕事、プール参加、「焼き芋を焼く会」等、多様な催しへの参加も含め、週に一度、園庭開放を行っている。あわせて地域の育児相談も実施している。 ・絵本や食事、健康等をテーマにした育児講座を年数回実施している。また園文庫の絵本等は園庭開放参加者にも貸し出している。
<p>Ⅲ-2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放が行われる毎週木曜日に育児相談も実施している。対応は原則的に園長が行っており、要望があれば設定曜日以外にも随時受け付けている。 ・周辺医療機関、横浜市総合リハビリテーションセンターなどの関係機関をまとめた一覧が事務所に常置され、全職員が確認できるようになっている。 ・関係機関との窓口となる職員が決まっている。関係機関との業務分担、担当窓口、受付方法等は明確化され、職員会議等を通じて周知されている。




評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・港北区幼稚園・保育園・小学校教育事業実行委員会の役員として地域の幼稚園、小学校と全体研修会を行っている。地域の防犯情報を把握するため近隣小学校（神大寺小学校）から情報提供を受ける仕組みも整っている。 ・近隣他園（あおぞら保育園）と交流を行うほか、近隣中学校３校からの職業体験も受け入れている。年長組の子ども達が近隣小学校を訪れる交流事業も定期的に行っている。 ・学童保育実施のバザーのチラシを園内に置き、子どもや保護者が参加できるよう配慮している。また、要請に応じてカスタネットやもちつきの道具、テント等の物品を貸し出している。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市や港北区ホームページでの情報提供のほか、平成 18 年 8 月から法人独自のホームページも立ち上げ、理念や方針、園での 1 日や年間行事などの情報を公開している。来年度は更新頻度の増加を検討している。 ・外部からの取材に積極的に応じている。地域ケーブルテレビの取材については放映番組の録画ビデオを保護者や園庭開放参加者に貸し出している。 ・園庭開放の利用者に、保護者に配布しているものと同じ健康情報（感染症の流行状況、予防策など）の文書を提供している。 ・利用希望者の問い合わせ、見学は随時受け付けている。見学希望者の要望に配慮し、土曜日、夜間の見学にも対応している。
<p>Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域中学校や短期大学等から職業体験や実習生の受け入れを行っている。また、平成 18 年度は、横浜市高等養護学校から知的障害者の実習生の受け入れも行っている。 ・実習生やボランティアの受け入れは、事前の職員会議で注意点、伝達事項等を全職員で議論している。決定内容は会議録に記録され、担当職員から実習生、ボランティアに伝えている。 ・期間終了後に参加者と職員とで振り返りや反省会を必ず行っている。その際、園についての提案等があれば職員会議などで議論し、運営にフィードバックするよう心がけている。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の経験年数毎に、期待する役割を明記した人材育成計画を法人全体で策定している。この計画に基づいて研修が実施され、保育士の資質向上が図られている。 ・参加者の研修レポートは全職員が閲覧できる。また、職員会議で研修での気づき、今後の保育に生かしたいポイントが報告され、情報の共有化がなされている。 ・法人全体として年度末に合同報告研修会を行い成果を確認しており、次年度への反省点を確認、見直している。研修内容は1冊にまとめられ、職員にも配布されている。
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児・幼児会議、リーダー会議、職員会議を通じて保育の反省点が上げられ、個々の職員が自己評価と課題整理を行っている。 ・横浜市総合リハビリテーションセンター（療育センター）のほか、学識経験者（大学教授）による園訪問で情報交換できるなど、外部評価、指導を受けられる機会を設けている。法人系列の保育園で職員交換を行って他園の保育をチェックしあう仕組みもある。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の経験年数に応じ、役割期待水準を明文化した文書「教育訓練体系」を法人全体で策定し、職員に配布している。 ・職員会議で①クラスのこと②行事のこと③職員個人の状況の3点を出席職員全員がそれぞれ話す場面を設け、業務改善提案を吸い上げている。また、年に1回、園長が個人面談を行って職員の満足度、要望を聞き取っている。 ・公立園からの民営化という経緯もあり、園長への報告・連絡・相談を原則とし責任体制を園長に一本化している。このため現在までは「可能な限り権限を現場に委譲できる」状況には至っていない。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員就業規則の中に懲戒についての項目が設けられている。また、服務心得として「機密事項をもらさない」「人格の陶冶に努力する」などが明文化されている。さらに、外部の講師を招き、職員が社会人として、サービス提供者として利用者に失礼のない対応ができるように「接遇」研修を行い、法人理事長や園長自らボランティアを率先して行ったり、挨拶を心がけるなど、人格づくりを大切にしている。 ・ゴミ減量化の取り組みとして、生ゴミ処理機を導入し畑の肥料として活用している。また、近隣公園の花壇の球根植えつけに子ども達が参加している。さらに、こまめに電気を消すなど省エネルギー対策に努めているものの、環境配慮の考え方を園の方針や目標に高めるまでには至っていないことが惜まれる。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員には採用時に理念や基本方針を説明している。また、各部会や研修会、新人研修時に職員にプリントを配布しているほか、日常保育の実践や行事等の際に職員が行事をどう捉えているかで職員の理解度を確認している。 ・一時保育の実施や年齢別の募集園児数の変更等、園運営に関わる重要な意思決定にあたって、保護者会で話し合い、保護者にアンケートをとるなど、継続的に意見交換を行っている。 ・法人のスケールメリットを活かし、法人系列の6園で法人内研修や情報交換、課題についての話し合い等を行う各種の部会（看護師からなる看護部会、栄養士などからなる給食部会、それぞれの保育士からなる0歳児部会、1歳児部会、2歳児部会、幼児部会、障害児部会、新人部会、主任部会など）が設置されている。 ・職員会議では必ず職員一人ひとりが業務状況や体調などを発言する場を設けており、抱えている課題や状態が把握できる仕組みになっているほか、主任は園長とともに業務報告書に目を通し状況を把握し、さらに各クラスを回り、子どもへの目配りを行っており、その場に合わせた助言や指導も行っている。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長や園長は区社会福祉協議会や横浜市私立保育園長会、区の虐待防止委員会等、様々な団体の役員になっており、最新の横浜市の動向など事業運営に影響のある情報を収集している。 ・集められた情報を分析し、経営者会議や園長会で検討された重要改善課題は、記録係によって文書化され、職員に配布されている。 ・横浜市の公立保育園民営化実施の初年度4園のうちの1園であり、民営化後も一時保育の実施、年齢別の募集園児数の変更等の検討など常に運営やサービスプロセスの新たなしくみを検討してい

る。また、平成 18 年度は障害者自立支援法などの施策を反映して障害者雇用のための第一歩として知的障害者の実習生の受け入れを行っている。

- ・後継者育成としては、採用時から後継者育成の視点に立って人材雇用を行い、育成に努めている。今後は能力給なども取り入れ、組織としての仕組みをより整えていく考えである。

家族アンケート取りまとめシート岸根保育園

結果の特徴

【調査対象】

岸根保育園の全利用（園児）100名に対する保護者89家族（世帯）にアンケートを実施した。

【調査方法】

事前に岸根保育園と評価機関の連名のアンケート依頼文を連絡帳に挟み込んでもらい、その2～3日後にアンケートを同じ方法で手渡してもらった。アンケートは約2週間の回答期間（平成18年7月20日～8月3日）を設け、直接評価機関に返送してもらった。

【回答があった利用者及び回答者の概要】

利用者総数／ 100名
調査対象総数／ 89家族（世帯）
有効回答数／ 41通
保護者（世帯）総数に対する回答者割合（%）／ 46.1%

【回答があった利用者の内訳】

回答者のクラス	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
	2.4%	14.6%	29.3%	19.5%	18.5%	14.6%	0.0%

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になる。)

【利用者家族アンケート全体のコメント】

- 「総合の満足度」では、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答が87.8%になり、個別の要望や希望はあっても、全体として概ね満足していることがうかがわれた。
- 項目別では、「園の遊びについて」（90.2%）や「園便りや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供」（95.1%）で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた回答が90%を超えた他、「遊びを通じた友だちとの関わりや保育士との関係などについて」（95.1%）や職員対応について「あなたのお子さんが大切にされているか」（90.3%）、「あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるか」（90.3%）などで、プラスの回答が90%を超え、遊びなどを通して保育士と子どもとの良好な関係が築かれていることがうかがわれた。
- 給食についての2項目でも「満足」だけで、60%前後となり「どちらかといえば満足」を合わせると90%前後になった。このことから、年齢別の食育指導計画に基づいた栽培・調理など食育への取り組みや極め細かい離乳食への対応、補食・夕食も含めたバランスよい献立等が保護者に好評であることがうかがわれた。個別の記載でも、「バランスがよい」「何でも食べられるようになった」など感謝の声があがっていた。
- 一方で、「不審者侵入に対する備え」では、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた回答が35%以上となり、やや満足度の低い項目となった。公園と隣接し環境が良いという声が聞かれる一方で、不審者侵入に備え、さらなるセキュリティの強化を求める声が多数きかれた。また、「衛生管理や感染症対策」でも「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた回答が25%を超え、蚊への対策やさらなるシャワーの利用を求める声があがっていた。
- その他、「不満や要望を気軽にいえるか」「送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明」などの項目で「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた回答が30%近くになり、やや満足度が低くなっていた。
- 自由記載欄の個別の意見としては、お絵かきや学習等教育的指導を求める声などが複数上がっていた。

※各データについては、次のとおりです。

なお、各質問で「その他」に回答した方の主なコメントを掲載しています。

調査結果

■保育園の基本理念や基本方針について

(%は小数第1位までの表示とし、合計の小数第1位を四捨五入すると100%にな

あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか。	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
(人)	6	17	7	8	3	0
(%)	14.6%	41.5%	17.1%	19.5%	7.3%	0.0%

↓

あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。	共感できる	まあ共感できる	どちらともいえない	あまり共感できない	共感できない	無回答
	15	7	1	0	0	0
	65.2%	30.4%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%

■保育園のサービス内容について

問2 入園する時の状況について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	16 39.0%	13 31.7%	2 4.9%	1 2.4%	8 19.5%	1 2.4%
	その他：・見学していない(6件) ・兄弟がすでに通っていた(2件) ・入園時は市立だったが、今は私立なので回答できない					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	14 34.1%	19 46.3%	3 7.3%	0 0.0%	3 7.3%	2 4.9%
	その他：・兄弟がすでに通っていた ・入園時は市立だったが今は私立なので回答できない					
入園時の面接については	11 26.8%	17 41.5%	1 2.4%	0 0.0%	9 22.0%	3 7.3%
	その他：・覚えていない(2件) ・面接はしなかった(3件) ・兄弟がすでに通っていた ・どれが面接だったか分からない ・入園時は市立だったが今は私立なので回答できない					
お子さんの様子や育成歴などを聞く対応には	15 36.6%	17 41.5%	4 9.8%	1 2.4%	3 7.3%	1 2.4%
	その他：・入園時は市立だったが今は私立なので回答できない ・用紙を提出しただけだったが、生活の中で色々先生方とは話をしているので不満はない					

園の目標や方針についての説明には	12	20	4	1	3	1
	29.3%	48.8%	9.8%	2.4%	7.3%	2.4%
	その他：・兄弟がすでに通っていた ・入園時は市立だったが今は私立なので回答できない ・説明があったように思わない					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	16	20	2	0	2	1
	39.0%	48.8%	4.9%	0.0%	4.9%	2.4%
	その他：・入園時は市立だったが今は私立なので回答できない					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明について	12	22	4	0	2	1
	29.3%	53.7%	9.8%	0.0%	4.9%	2.4%
	その他：・入園時は市立だったが今は私立なので回答できない					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	13	21	5	2	0	0
	31.7%	51.2%	12.2%	4.9%	0.0%	0.0%
	その他：・夏祭りなど園行事の説明をより分かりやすくしてほしい(不満に○)					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	8	20	5	1	7	0
	19.5%	48.8%	12.2%	2.4%	17.1%	0.0%
	その他：・入園したばかりなのでよく分からない ・保護者会役員ではない為、よく分からない(2件) ・よく分からない(2件) ・未経験					

問4 日常の保育内容について

「遊び」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
園の遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	18	19	2	1	1	0
	43.9%	46.3%	4.9%	2.4%	2.4%	0.0%
	その他：					

園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように 置いてあるか、年齢にふさわしいか など)	14	19	5	1	2	0
	34.1%	46.3%	12.2%	2.4%	4.9%	0.0%
	その他:・種類や量をさらに増やしてほしい ・年齢に対してさらに変化を持たせてほしい(どちらかといえば不満に○) ・細かいところはよく分からない					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	20	13	5	2	1	0
	48.8%	31.7%	12.2%	4.9%	2.4%	0.0%
	その他:・お散歩を増やしてほしい(2件)					
遊びを通じた友だちとの関わりや、 保育士との関係などについては	16	23	2	0	0	0
	39.0%	56.1%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくり への取り組みについては	16	18	4	1	2	0
	39.0%	43.9%	9.8%	2.4%	4.9%	0.0%
	その他:・移る病気に対して貼りだしはされているが、口頭でも説明して欲しい(どちらかといえば不満に○)					

「生活」について

	満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
給食のメニューの充実については	24	12	3	1	1	0
	58.5%	29.3%	7.3%	2.4%	2.4%	0.0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかにつ いては	25	13	1	2	0	0
	61.0%	31.7%	2.4%	4.9%	0.0%	0.0%
	その他:・アレルギーに対して細かく調理分けしてくれている(どちらかといえ ば満足に○)					
昼寝や休憩がお子さんの状況に 応じて対応されているかなどにつ いては	21	13	3	2	2	0
	51.2%	31.7%	7.3%	4.9%	4.9%	0.0%
	その他:・昼寝はできればもう少し早く寝かせてほしい ・分からない					

家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	15	13	2	2	7	2
	36.6%	31.7%	4.9%	4.9%	17.1%	4.9%
その他：・あせらずにしているようだが、もっとコメントを増やしてほしい ・個々への対応はまだない ・その年齢でないので把握していない(2件) ・おむつがとれてから入園						
お子さんの体調への気配りについては	19	17	4	1	0	0
	46.3%	41.5%	9.8%	2.4%	0.0%	0.0%
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	15	16	3	4	3	0
	36.6%	39.0%	7.3%	9.8%	7.3%	0.0%
その他：・まだ、ケガをしていない						

問5 保育園の快適さや安全対策などについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
園舎、園庭などの施設については	10	23	4	3	1	0
	24.4%	56.1%	9.8%	7.3%	2.4%	0.0%
その他：・危ないところを見つけると、すぐに対応していて良いと思う(満足に○) ・畑の草むしりと駐車場側の門の安全対策を ・2つ門の常時利用化を進めてほしい						
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	15	20	5	0	1	0
	36.6%	48.8%	12.2%	0.0%	2.4%	0.0%
その他：						
外部からの不審者侵入に対する備えについては	4	19	10	5	3	0
	9.8%	46.3%	24.4%	12.2%	7.3%	0.0%
その他：・万全ではないと思うが、難しいことなので、みんなで協力し合えばよいと思う ・判断、比較できない ・前が公園ということもあり、開放的な部分があり少し不安(どちらかといえば不満に○)						
衛生管理や感染症対策については	8	20	9	2	2	0
	19.5%	48.8%	22.0%	4.9%	4.9%	0.0%
その他：・保育士によって見解が異なることがあった(不満に○) ・うがいや水分補給をもっと勧めてほしい ・汗をかいた時などシャワー浴をもっと増やしてほしい						

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	10	19	5	2	4	1
	24.4%	46.3%	12.2%	4.9%	9.8%	2.4%
	その他：・回数を増やしてほしい ・面談が年2回位あってもよいと思う ・他クラスと日程が重ならないようにしてほしい(どちらかといえば不満に○) ・もっと子どもの様子や園の取り組み、子どもの成長など聞きたい					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	14	25	0	1	1	0
	34.1%	61.0%	0.0%	2.4%	2.4%	0.0%
	その他：・クラスの掲示物を扉や壁などあちこちにせず、掲示板など一定のところにまとめてほしい					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	11	23	5	1	1	0
	26.8%	56.1%	12.2%	2.4%	2.4%	0.0%
	その他：・まだ、よく分からない					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	8	18	8	4	3	0
	19.5%	43.9%	19.5%	9.8%	7.3%	0.0%
	その他：・先生によって相違あり(2件) ・先生の方からもっと聞いてほしい(どちらかといえば不満に○)					
お子さんのに関する重要な情報の連絡体制については	10	25	3	2	1	0
	24.4%	61.0%	7.3%	4.9%	2.4%	0.0%
	その他：・どういう状況のことかわからない					
保護者からの相談事への対応には	14	18	6	0	3	0
	34.1%	43.9%	14.6%	0.0%	7.3%	0.0%
	その他：・小さなことでもちゃんと聞いてくれるので、とても助かっている(満足に○) ・普通でありどちらともいえない ・案件による					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	15	16	3	0	6	1
	36.6%	39.0%	7.3%	0.0%	14.6%	2.4%
	その他：・未経験のため不明(4件)					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	17	20	3	1	0	0
	41.5%	48.8%	7.3%	2.4%	0.0%	0.0%
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんで いるかについては	20	17	4	0	0	0
	48.8%	41.5%	9.8%	0.0%	0.0%	0.0%
アレルギーのあるお子さんや障害のある お子さんへの配慮については	13	15	1	0	10	2
	31.7%	36.6%	2.4%	0.0%	24.4%	4.9%
その他：・分からない(5件) ・アレルギーがないので分からない(4件) ・それぞれの感じ方があるため、正直なところ難しい						
不満や要望を気軽に言えるかどうか については	8	20	11	1	1	0
	19.5%	48.8%	26.8%	2.4%	2.4%	0.0%
その他：・分からない						
不満や要望への対応については	8	18	8	0	6	1
	19.5%	43.9%	19.5%	0.0%	14.6%	2.4%
その他：・良い面と悪い面両方あり ・まだ、ありません ・分からない						

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答
総合満足度は	17	19	2	2	1
	41.5%	46.3%	4.9%	4.9%	2.4%

岸根保育園利用者本人調査取りまとめシート

結果の特徴

調査対象：園児 100 人のうち、園側に予めリストアップしていただいた 10 名（園児の 10%）を調査対象とした。〔0 歳児 0 人、1 歳児 1 人、2 歳児 1 人、3 歳児 1 人、4 歳児 1 人、5 歳児 3 人、6 歳児 3 人〕

項目	回答者年齢	人数	内 訳	園全体の人数
保 育 観 察	0～2 歳	2 人	男児 1 人 女児 1 人	34 人
	3～4 歳	2 人	男児 1 人 女児 1 人	66 人
本人聴き取り調査	5～6 歳	6 人	男児 3 人・女児 3 人	

【調査方法】

《保 育 観 察》

調査員 2 名が 0～4 歳の 4 名を保育の現場で、施設側から提供された利用者情報シートを参考に遊び・食事・排泄・午睡等の保育状況を観察した。

《本人聴き取り調査》

5～6 歳の 6 名を対象に、食事・遊び・排泄等について聴き取り調査を行った。食事については給食を共にしながら、また遊びなどについても活動中の子どもたちの脇で聴き取りを行い、より自然な形での意見聴取に配慮した。

【保育観察の結果】

《全体のコメント》

- 子どもそれぞれの意思や好奇心が尊重されており、外遊びでは、園庭の砂場、ログハウス、遊具、竹馬、三輪車、虫さがし、鬼ごっこなど多彩な遊びの中で、それぞれが生き生きと満足度の高い時間をすごしていたように思われる。
- 子どもが好きなことを選べる環境が年齢毎に整えられている。例えば 4 歳児では園で栽培したサツマイモの蔓でリース作りを行っていたが、全員が一斉に取り組むのではなく、自由時間を利用し、子どもの興味や意欲に合わせて取り組めるよう援助が行われている。また、子どもがより意思表示し易いように「じゃあ、またやりたくなったら言ってね」という声かけを保育士が行っている様子も観られた。
- 意思を言葉にできない年齢の子どもは保育士の「どっちがすき？」「絵本よもっか？」などの働きかけに答えることで遊びを選んでいる。また、保育士の必要以上に手を出さない、見守る姿勢によって自分のしたいことをためらうことなく選び、のびのび時間をすごしていた。

<遊び>特に外遊びでは、園庭の砂場、ログハウス、遊具などを使い子どもが思い思いに遊びこむ様子が見られた。0～2歳児では砂を握り締めて感触を楽しんだり、落ちている赤い木の実を集めて「てんとう虫に似てる」と保育士や友だちに話しかけていた。

3歳児の一斉活動のリレーでは、自分の番が近づくとやや緊張した顔つきで順番を待ち、友達の走る姿に盛んに声援を送っていた。また、自由活動では友達との関係を楽しみ、おしゃべりし、笑いあうのびやかな姿が見られた。

4歳児は外遊び前に一斉保育として球根の水栽培を行ったが、外遊びでほかの子どもが外に出てしまっても興味津々で水栽培をのぞきこむ姿が見られた。

<食事>0～2歳児では食事の始まり、終わりには挨拶を兼ねた歌が歌われ、歌えない子も体でリズムをとりながら全身で喜んでた。乳児でも陶器の器をしっかり押さえて食べており、まず食べ物をじっくり観察しながら食べる子、好きなものから猛スピードで食べる子など、それぞれ自分のペースで食事を楽しんでいた。全部食べ終わると「ほら～、お皿ピカピカになったよ」と自慢げに振舞い、保育士からほめられて笑顔を見せていた。また、3歳児では友だちとのおしゃべりを楽しみながら箸を上手に使って食べていた。全体として食事を楽しむことが定着しているようだった。

<排泄>排泄の際「〇〇ちゃん、おしっこしてさっぱりする？」という保育士の声かけで、自発的にトイレに向う姿が多く見られた。オムツ交換の後におなかをさすられたり、袖を通すたびに「シュポッ、シュポッ」と効果音をつけてもらうのがうれしく、声をあげて喜ぶ子どももいた。

<午睡>0～2歳児では保育士が5分おきに睡眠状況（呼吸、うつぶせ寝になっていないか、布団がはがれていないか）を確認し、寝付けない子にはずっと体をさすってスキンシップをとっていた。午睡あけにすっきり目覚める事ができず、泣いて保育士の胸にしがみついた場面もあったが、保育士の丁寧な働きかけでうまく気持ちの切り替えをはかっていた。3、4歳児で寝付けずにゴロゴロしていた子どもも、寝入ってしまうとおやつが始まる頃までぐっすり寝ていた。

【本人聴き取り調査の結果】

《全体のコメント》

○特に男児の場合、照れなどもあり、わざとひねった回答をする様子も見られた。女兒は素直に質問に応じ、ハキハキと回答していた。

○全ての回答者が保育園での遊びを「楽しい」と回答しており、おもちゃがある、園庭での遊具が楽しい、友達と会えるからなど理由もさまざまなものがあがった。子どもたちがそれぞれに好きな遊びを見つけていること、その遊びに満足感を得ているものと思われる。

○「給食では自分で食べられる量を加減して盛りつけ、盛りつけたものは残さず食べる」「昼寝したくないときは、ほかのお友だちのじゃまにならないように静かにする」というルールをどう受け止めるかによって、子ども達の回答にバラツキが見られたように思う。ただ全体を通じて、そうしたルールが子どもたちに定着していることが確認できた。

〔質問項目別の特徴〕

- <遊び>** 回答者全員が「保育園での遊びは楽しい」と答えている。その理由も多様で、おもちゃがある、園庭での遊具が楽しい、友達と会えるからなど自分なりの楽しさを見出しているように思われる。
- <食事>** 「楽しいですか？」と聞かれると素っ気無い返事をする子どももいたが、実際の食事風景を観察すると、もりもりと元気よく食べたり、おかわりをして満足しているようだった。
なお、5、6歳児は自分で盛りつけを行っており「自分で食べられる量を加減して盛りつけ、盛りつけたものはできるだけ残さず食べる」という方針になっている。「食べられないとき残せるか」という設問には半数が「いいえ」と回答し、さらに「わからない」と答えた子どももいるが、背景にはそうした事情があり、実際は個々の子どもに合わせ量を加減できるようになっている。
- <排泄>** 「行きたい時にトイレに行っているか」では、トイレに行く際に保育士に声をかける事をどのように捉えるかで回答が分かれた。保育士に断わるので、自由ではないと考える子どもも3分の1いた。また、「ウンチを拭けない時手伝ってもらえるか」や「おもらした時、きれいにしてもらえるか」については回答者の3分の2が「自分でできる」と答え、非該当となった。
- <清潔・着替え>** 体調が悪化した場合、園では多目的使用の畳敷きの部屋で子どもを休ませている。部屋のドアにうさぎのマークが貼ってあることから、「熱がでたとき、静かに休めるようにしてくれるか」という問いに3分の2の子どもが「うさぎの部屋で休める」など「はい」と答えている。回答者の大部分が、衣服が汚れたり体調が悪化したときには対応してもらえると答えている。
- <権利>** 「けんかしたときなどに先生があなたの話を聴いてくれるか」には回答者の半数が「はい」と答えている。午睡については大多数の子どもが「他のお友達のじゃまにならないように静かすること」を前提と考えているようで、そのルールの受け止め方により「昼寝したくないときはしなくていいか」という設問への回答が分かれたものと考えられる。「はい」と答えた回答者は3分の2だった。また、全回答者が「ちゃん」もしくは「くん」づけで呼ばれていると回答している。
- <職員対応>** 「担任以外の先生も声かけや世話をしてくれるか」という回答には、実際に話した経験のある3分の1の子どもが「はい」と回答した。調査当日も、園長は園庭での竹馬遊びに参加していたが、そうした経験などを通じて園長と関わったと回答した子どもは半数であった。

事業者からの意見(コメント)シート

当法人山百合会は、社会福祉法人に求められるその時々の子どもの社会的要請に迅速・柔軟に応える事を使命とし、歴史と経験を積み重ねてまいりました。民間移管を受託したのは、「子ども達の最善の利益を守る事」「保護者の不利益を最小限にとどめる事」が社会的使命だと受け止めたからでした。こんにちまで様々な課題に直面しながらも保育園運営を続けてこられたのは、混乱した状況の中にあっても法人職員に対して、暖かく時に厳しく見守り、叱咤激励の声援を送り続けて支えて下さった保護者の皆さんのお力添えがあったからでした。

今回、岸根保育園において保育園が適切に運営されているのかを客観的に評価していただくために第三者評価を受審しました。受審の作業の中で、全職員が日常の業務のふり返りを行い、新たな気づきや課題が掘り起こされました。その上で出された結果を真摯に受け止め今後の取り組みに生かしていきたいと決意を新たにしています。

次世代を担う子ども達の豊かな育ちを保障するためにはきめ細やかな取り組みが前提であり、そのためには法人の努力と共に社会全体で子育て家庭を支援する仕組みが不可欠で、公的責任の重要さを改めて実感しました。

今回私達職員が出した自己評価を包み込んで頂く様な評価結果に安堵する事なく、今後も職員一同研鑽を重ねていく所存です。御理解・御協力頂いた保護者をはじめ全ての方々に、この機会をお借りして感謝を申し上げます。